

地元の魅力や災害情報を地図に

復興・防災マップコンクール

石巻市復興・防災マップコンクール表彰式

市長賞は鮎川小3～4年生

市内の小・中学生が地元の魅力や災害情報を地図にした「第6回石巻市復興・防災マップコンクール」の表彰式が1月18日、市防災センターで開かれました。

教育委員会と学校防災推進会議が主催するコンクールで、子どもたちに地元の自然や歴史、安心安全への関心を高めてもらうことを目的としています。本年度は20の小学校から54作品、5つの中学校から15作品が寄せられ、計843人の児童生徒がマップ作りに携わりました。

審査は学識経験者や同推進会議のメンバーの皆さんが行い、市長賞、教育長賞、石巻市地域連携会議会長賞、東北大学災害科学国際研究所特別賞を各1校、奨励賞3校、防災チャレンジ賞18校を選出しました。

最高賞の市長賞には、鮎川小の3～4年生5人がまとめた防災マップが選ばれ、審査員からは「少ない人数ながら、地域のことがよくまとめられていました。インタビューをしたことで、地域の皆さんの顔までイメージできるような作りになっており、主体性も見られます」などと講評がありました。

☎ 学校安全推進課(内線5084)



SDGsパートナーセミナーを開催しました



Sustainable (サスティナブル:持続可能な)
Development (ディベロップメント:開発)
Goals (ゴールズ:目標)

SDGs(持続可能な開発目標)は、地球上に住む全ての人が暮らしやすい社会を将来に引き継いでいくための世界共通の17の目標です。

SDGsの達成に向けた取り組みは、各企業や団体などの企業経営において重要な取り組みの1つとなっています。今回は、ともにSDGsに取り組むパートナー企業を対象に、企業から取り組みについてのお話を聞くセミナーを開催しましたので紹介します。 ☎ SDGs移住定住推進課(内線4224)

SDGsパートナーとは?

市では、SDGsの普及啓発やSDGsの達成に向けた取り組みの一層の推進を図るため、SDGsに取り組む企業・団体をSDGsパートナーとして登録しており、1月末現在で369の企業・団体が登録しています。

SDGsパートナーは、随時募集していますので、興味のある企業・団体は気軽に問い合わせください。

☎・☎ SDGs移住定住推進課(内線4224)

SDGs・脱炭素に向けた取り組みについて

七十七銀行のSDGs・脱炭素に向けた取り組みについて



セミナーの第1部では、株式会社七十七銀行総合企画部副部長兼サステナビリティ推進室長の鈴木氏より「七十七銀行のSDGs・脱炭素に向けた取り組みについて」と題してお話いただきました。七十七グループのSDGs・脱炭素に向けた取り組みやその重要性、企業がSDGs経営を実践するための支援制度や実際の支援制度活用事例などについてのお話がありました。

私たちの会社では、こんな取り組みをしています!

第2部では、「パートナー企業の取り組み事例紹介」として、パートナー企業の3社より、SDGs推進のために、実際にどのような取り組みを行っているのか、お話がありました。

石巻商工信用組合



石巻商工信用組合常務理事の熱海氏からは、ゴール8「働きがいも経済成長も」に関する取り組みとして、事業後継者の方を対象とした経営力向上のための研修の開催などの紹介がありました。

6★グランド ホテル



株式会社ソーワダイレクト常務取締役の小野氏からは、ゴール5「飢餓をゼロに」に関する取り組みとして、ホテル業において地産地消推進のため、地域特性にフォーカスした料理の考案などの紹介がありました。

株式会社エスディ佐藤電気



株式会社エスディ佐藤電気常務取締役の吉木氏からは、ゴール5「ジェンダー平等を実現しよう」に関する取り組みとして、女性社員の資格取得のための支援や、女性の力を活かす取り組みなどの紹介がありました。



みんなのた場

スポット
ライト

まちなかに文化芸術拠点
シアターキネマティカ

中心市街地・芸術文化発信拠点に

石巻市中央の空き家を改装し、映画上映や演劇舞台などさまざまな娯楽に対応する複合施設「シアターキネマティカ」。昨年8月にオープンし、演劇のワークショップや子ども映画の上映、アートパフォーマンスなどが展開されており、中心市街地ににぎわいを生み出

しています。施設を手がけたのは石巻劇場芸術協会の阿部拓郎さん、矢口龍太さんの2人です。これまで、さまざまな活動をしながら石巻のまちなかに文化の灯りをともし、にぎわいを取り戻したいという夢を膨らませてきました。そんな中で同市中央に



「芸術文化の火を灯し続けたい」と話す阿部さん(左)と矢口さん(右)

あった映画館・日活パールの並びにある空き家と出会い、プロジェクトが動き出したのは2年前。元々は布団店だった店舗を改装するプロジェクトを立ち上げ、クラウドファンディングなどで資金を募りながらコツコツと作業を続けてきました。改装は市民の皆さんもボランティアで参加し、地域が手作りした施設です。70平方メートルのシアターがあり、小さな舞台やスクリーンを完備しています。エントランスとなる部分は、コーヒーやソフトドリンク、フルーツサンド、ホットサンドなどの軽食を提供するカフェになっています。昨年8月に開かれたオープニングセレモニーには、多くの皆さんや齋藤市長も駆け付け、盛大に施設の完成を祝いました。稼働後は文化芸術活動を発信する拠点として、お笑いライブ、落語上演、映画鑑賞会などさまざまなイベントで活用されています。

阿部さんは「シアターやカフェでの交流を通じて、地元である石巻から、全国に羽ばたく監督や俳優などを輩出できるように努めていきたい」と話し、矢口さんも「子どもからお年寄りまで、幅広い人たちが気軽に訪れ、文化芸術を灯して地域交流の輪が広がっていつてくれれば」と思いを込めます。

中心市街地を訪れた際は「キネマティカ」まで足を伸ばしてみてください。

ささえあいセンター通信 13

石巻市地域福祉計画のおはなし (その2) —いつも自分らしく生きるためにみんなで支え合う地域づくり—

第4期石巻市地域福祉計画では、「いつも自分らしく生きるためにみんなで支え合う地域づくり」を基本理念として、3つの基本目標を立て、それぞれに掲げた自助・互助・共助・公助の取り組みを展開することで地域福祉の推進を図って行くこととしています。

今月はその基本目標と市や関係機関の主な取り組み(共助・公助)について石巻市地域福祉計画の概要版から抜粋してお知らせします。

基本目標	方向性	市や関係機関の主な取組
身近なことの変化に『気づく』地域づくり	気負いなく手助けできる住民が増えるよう、地域でのあいさつや声かけ、福祉教育の充実や地域で気軽に集える場を推進し、顔の見える関係性を広げ、ささいな変化に『気づく』地域づくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> 福祉意識の醸成 民生委員・児童委員の活動支援 困りごと、悩みごとに気づける体制づくりなど
人と地域が『つながる』仕組みづくり	一人一人の気づきが地域活動団体や行政の相談窓口などに『つながる』ように、誰もが必要な情報を得ることのできる情報提供や周知とまると受け止める相談体制を推進するとともに、支援する様々な関係機関との連携強化を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動の人材育成 団体と関係機関等との連携強化 サービスや支援が必要な人の把握など
安心して健やかな暮らしを『支える』体制づくり	高齢者、障害者、子どもや子育て世代、生活困窮者などすべての人がいつまでも健康で安心して暮らすことができるよう、心身の健康づくりや支援体制整備を図り、日常を『支える』体制づくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> 居場所づくりの推進 相談支援体制の推進 生きがいづくりと社会参加の推進 在宅医療・介護の連携 災害時の支援体制の構築推進など

図 保健福祉総務課(内線2466)



平成27年に市指定文化財に指定された

文化財
たんぽう

124

まちづくりにおける活用・次世代へ継承するために 「石巻市指定有形文化財「旧観慶丸商店」」

石巻市教育委員会生涯学習課

中心市街地に建つ旧観慶丸商店は、石巻初の百貨店として昭和5年に建てられ、その後は陶器店として約70年間にわたり、市民に親しまれてきました。

平成23年の東日本大震災によって被災しましたが、その後建物が市に寄贈され、災害復旧工事を行い、平成27年、市指定有形文化財に指定されました。

その後、平成29年に開館し、現在は指定管理者による運営が行われています。

建物は木造三階建てとなっており、一階部分はイベントなどを実施し街の活性化を図るため、文化

交流スペースとしての貸し出しを行っています。二階部分は石巻市博物館のサテライト施設として、旧観慶丸商店に関する歴史や、毛利コレクションなどの資料を展示しています。

三階部分には百貨店時代に使われていた食堂などがあります。消防法により通常公開ができませんが、年に数回、人数制限をして一階と二階の和室部分とともに特別公開を行っています。

文化財は保存修理する

だけでなく、文化財としての価値を保ちながら利活用し、次世代へ継承していくことが求められます。今後も適切な保存修理を行いながら、たくさんの方々を活用してもらい、街の活性化に貢献できるように、周知を図っていきます。



特別公開の様子

桃生 アロマ作りで心身に癒やし

桃生子育て支援センター



桃生子育て支援センターキッズホームにて、子育てママ向けの企画「アロマジェル作り教室」が1月25日に開かれました。蛇田地区在住のアロマセラピスト鈴木おり絵さんから教わり、参加した親子が楽しく取り組みました。長男、長女と参加した高橋智子さんは「アロマ作りは初体験でとても楽しみにしていました。すごく良い匂いで癒やされます。完成品はリビングに飾りたいと思います」と話していました。



石巻 世界一の団体が地元で演奏

石巻スコップーズが華やかに

令和4年12月に青森県五所川原市で開かれた津軽すこっぷ三味線世界大会の団体の部で優勝した「石巻スコップーズ」が2月5日に蛇田公民館で優勝報告演奏会を開きました。震災後からスコップを楽器として演奏し、被災者を勇気付けてきました。集まった180人近いファンとともに、演奏やセッションで喜びを分かち合いました。



河北 長くまわして優勝目指す

コマまわし大会

毎年恒例の「コマまわし大会」が1月31日、大谷地保育所で行われました。思い思いに色を塗ったコマが綺麗に回るように、ひもの巻き方や投げ方などを工夫し、回る長さを競いました。4月には河北保育所として新しくなるため最後の大会となりました。



雄勝 新春の運試しに大きな笑顔

硯上の里の大抽選会

恒例の年末年始大抽選会が、道の駅硯上の里おがつにて1月8日に開催されました。毎年、沢山の景品が当たることで地元の皆さんからも大好評で、今年も抽選会開始前から多くの方が来場しました。当日は、味噌作・胴躰し愛好連による新春安全祈願獅子振りや餅つき大会なども開催され、新春の穏やかな日の中で、沢山の歓声と笑顔が溢れました。



北上 住みよいまちへ懇談

動く市長室 in 北上

齋藤市長が各地区で住民と直接意見を交わす「動く市長室」が、1月25日に北上総合支所で開かれました。昨年度に続いて2回目の開催で、住民12人が道路整備や住宅団地の定期的な除草、水がふれる側溝の改良などを求めました。交流人口拡大に向けた提言もあり、齋藤市長からも地域へ、休止している地引網体験の復活の提案がありました。



河南 河南つくも大学閉講式

本年度は18人が修了

河南公民館主催の高齢者向け生涯学習教室「河南つくも大学」の本年度最終講座と閉講式が令和4年12月14日、遊楽館大会議室で開かれました。講座は介護福祉課の理学療法士が「いつかその日のために～生き生き人生を送るためのヒント」と題し、終活、をテーマに講演。最期まで自分らしくあり続けるためのヒントを伝え、講演後に行われた閉講式では、受講生全員に修了証書が手渡されました。



牡鹿 寒さに負けず楽しく滑走

スケート教室開催

2月2日、プレナミヤギを会場に大原小学校と寄磯小学校の合同スケート教室が開催されました。他校との交流や、ウインタースポーツに親しむを持ってもらうために開催しています。合わせて15人の児童が参加し、寒さに負けず、他校の児童とも交流しながら楽しく滑走していました。転びながらもチャレンジを続けるうちにコツをつかみ、スイスイと滑ることができ、達成感を味わったようです。

